

血液中の脂質（血清脂質）にはコレステロール、中性脂肪（トリグリセライド）、リン脂質、脂肪酸といったものがあります。脂質は体内で、細胞膜やステロイドホルモンの材料になるなど、大変重要な役割を担っています。しかし血液中に脂肪分が異常に多い状態になると、高脂血症となり、動脈硬化を起こしやすくなります。

- タイプがある -

高脂血症には、次のようなタイプがあり、治療の対象となります。高脂血症の患者さんの8割は高コレステロール血症といわれます。

- ・ 悪玉（LDL）コレステロール値が高い、高コレステロール血症
- ・ 中性脂肪（トリグリセライド）が高い、高中性脂肪血症
- ・ 両方が高い、複合型高脂血症
- ・ 善玉（HDL）コレステロール値が低い、低HDLコレステロール血症

初期だからと安心は禁物

高脂血症は、子どものときから無症状で発症し進行する「沈黙の病気」です。年齢とともに進行しますが、生活習慣が悪いとそのスピードは早まります。動脈硬化を起こした結果、虚性心疾患（狭心症・心筋梗塞）、脳血管障害（脳梗塞・脳出血）などが起こりやすくなります。しかも、動脈硬化は初期の段階でも要注意です。心筋梗塞を起こして亡くなった人を解剖して動脈硬化の進行を調べた結果、血管が半分以上ふさがるほど進行していた人が32%に対し、初期段階だった人が68%もいたという結果があります。

悪い生活習慣から高脂血症に



食べすぎ



運動不足

これらの生活を続けると、肥満になりやすく、血中コレステロールなどが増えて動脈硬化が進み、血栓（血液の凝固塊。血管を詰まらせることもある）もできやすくなります。

薬物療法

高脂血症の薬物療法は、血清脂質の値が高すぎる場合や、食事・運動療法をしばらく続けても効果が十分に現れない場合に始められます。しかし、薬を飲んでいればそれで解消されるわけではありません。食事や運動など生活改善を続けていないと薬の効果が十分に出ないことがあります。また、血清脂質の値が下がったから「治った」

と勘違いして薬を飲むのを止めると、また元通りになってしまいます。高脂血症は体質的なものが強いので、**治療を怠れば血清脂質値はすぐに上昇してしまうケースが多く見受けられます。**高脂血症の治療を受けている方は、処方されている薬は医師の指示通り、継続して飲み続けましょう。

にしいち調剤薬局・ニシイチドラッグ